

「深刻、クルド人難民」

イランの キャンプ

上映できなかったり、クルドの慣習で男性と女性が同席できないため、一番見てほしい若い女性にビデオを見てもらえなかつたりして大変でした」と三宅さん。それでも、上映会は子どもたちを中心にぎっしり。冊子は配るたびに奪い合いになるほどで、一冊も捨てられたものはなかつた。しかし、次第にイラクに帰国させられ、いまは約八万人に減少。NGO団体が集中しているバクラン州のキャンプでは、食料や医療の態勢は最低限のレベルは保たれていたが、北隣のクルディスタン州はいまだに戦闘が続き、食料不足が深刻な状況だという。



〈岡大OBの医師〉
三宅和久さん報告

して、八月二十六日から十一月三日までイランに滞在。他のNGO（非政府組織）の日本人メンバーと二人で、延べ約二十のキャンプを訪れ、予防医療教育のプログラムをを行った。

「援助の手、もっと」

予防医療「歓迎された」

三宅さんは、現在はず治徳洲会病院で研修中。AMDA（アジア医師連絡協議会）のメンバーと

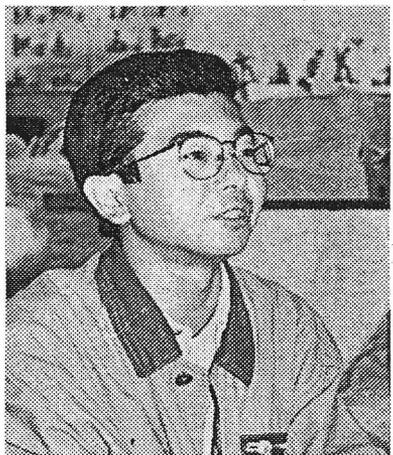
漠。気温が日中はセ氏四六度にまで上昇し、夜は水点下三〇度まで下が

たという。NGOは貧困、難民、環境問題などの解決に取り組み民間の非営利の海外協力団体。

「日本で忘れていてもクルド人難民は存在しているのです」と報告会で説明する三宅さん

府運動を行ったことへの報復を恐れたクルド人が、イラン、トルコ領内に大量流入。今年四月には最高百四十万人にもな

「日本では忘れられているクルド人難民の存在。ユニークな試みと援助の実情を聞いた。」



(小林 理)

院で

ていた。